



2025年

4月

中国四国農政局
徳島県拠点

第1回みどり戦略学生チャレンジに取り組んだ学校

農林水産省は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をスマート農業等のイノベーションで実現するための新たな政策方針として、2021年に「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

この戦略の目標達成に向け、将来を担う若い世代の環境に配慮した取組を促すため、大学生や高校生等を対象に、当該戦略に基づいた活動を実践する機会として「第1回みどり戦略学生チャレンジ」を実施しました。

徳島県内では3校（4グループ）から応募があり、徳島県立吉野川高等学校が中国四国ブロック優秀賞を受賞しました。

鳴門ワカメ新農業資材開発プロジェクト～渦潮から生まれた宝物～ 徳島県立吉野川高等学校

徳島県立吉野川高等学校は、鳴門ワカメの未利用部位を利用した農業資材の開発に向けたプロジェクトに取り組みました。

鳴門の渦潮が生み出す潮流で大きく育った鳴門ワカメは、徳島県の特産品として知られていますが、鳴門ワカメの根際は非可食部位として利用されることはありません。生ゴミとして焼却すると、年間157,927tもの二酸化炭素が排出されることになり、その廃棄処分が大きな課題でした。

そこで、鳴門ワカメの廃棄ゼロを目指し、関係機関の協力のもと鳴門ワカメの未利用部位の土壌改良資材化に取り組みました。



完成した土壌改良資材を用いて大玉トマトによる育苗試験を行った結果、土壌の保水率が向上し生育に適した水分量が保たれ、資材がトマトの生育に良い影響を与えることがわかりました。また、マグネシウムとカリウムの肥料成分も含まれていることが分かり、近年高騰する肥料の代替品としても期待できます。

今後は、この資材を用いて植林事業に貢献し、二酸化炭素の吸収を海洋と山林の両方で行うプロジェクトに取り組みたい。

世界農業遺産！傾斜地農耕システムの秘密 ～コエグロ利用の可能性を探る！！～

徳島県立脇町高等学校

徳島県立脇町高等学校は、世界農業遺産である「にし阿波の傾斜地の持続可能な循環農業」に使用されているコエグロを平地でも応用し、循環農業として生かすことを目標に研究を始めました。

コエグロとは、刈り取ったカヤを束にしテント型に積み上げたもので、農地に投入されるまでカヤを腐らせないための保存方法です。

にし阿波の傾斜地において持続可能な循環農業が成立しているのは、「肥料として用いるカヤをコエグロにして保存している過程で農業に有用な菌が発生している」という仮説を立て、有用な菌の存在とその働きについて実験を行いました。



実験の結果、傾斜地農法を行う畑の土とカヤからは、農業に有用と考えられる3種類の菌が見つかり、植物の成長に悪影響を与える線虫に対する殺線虫効果や、植物ホルモンの分泌による植物の成長促進効果を示しました。

今後は、3種類の菌が、にし阿波での傾斜地農法だけに関わる特別な菌であるかなどについて検証することとしています。



カヤの保水性を高めるには

徳島県立脇町高等学校

徳島県立脇町高等学校は、にし阿波地域で行われている急傾斜地にカヤを敷きこむことで土壌流出を防ぎ、段々畑を作らず斜面のまま耕作をするといった独自の傾斜地農法が、他の地域において応用ができないかと考え研究を始めました。

カヤは、土壌流出防止、雑草の抑制、保温、保水効果があると言われています。カヤとともに、落ち葉、米ぬか、そば殻、みかんの皮を敷きこみ、土壌の保水効果をさらに高めるためカヤに加えるもの自体が持つ保水性と、にし阿波地域に近い土壌環境での保水性を確認する2種類の実験を行いました。

その結果、カヤに加えて保水効果を高めるのは、落ち葉が最適であることを確認しました。

また、カヤを使った先人たちの知恵が、非常に大切なことに改めて気づくことができました。



※カヤとは、ススキやチガヤなどのイネ科植物を指す言葉です。

サステナブルな地域農業を四国のやまあいから ～ウマバプロジェクトを事例に～

徳島文理大学

徳島文理大学総合政策学部生は、「ウマバプロジェクト」（以下「プロジェクト」）の趣旨に賛同し、「カーボンニュートラル推進研究会」を立ち上げ、プロジェクトの紹介や地球温暖化対策の重要性について普及啓発活動に取り組みました。

プロジェクトとは、三好市池田町の標高400mの山あいにある「ウマバ集落」において展開されている産学官及び地域が連携し地域課題解決とともに新たな価値を創造する取組です。

プロジェクトは、「地域再エネ効率的利用推進」と「再エネ利用促進次世代型ソーラーシェアリング」の2つの取組で構成され、これらの実証実験に取り組んでいます。

この取組の中で、若者視点から「体験型学習プログラム」を提案し、「ウマバSDGsアカデミー（雲海塾）」を実現しました。雲海塾では、プロジェクトの関連施設の視察や農産物の収穫体験のほか、専門家によるスマート農業や地域防災の講義を行いました。

このプロジェクトに参画することで、サステナブルな地域づくりにおける地域農業や地域防災の重要性など多くの学びを得ることができました。

これらの学びを自分たちだけのものとはせず、次々とバトンを渡せるように「学びの伝承」にしっかりと取り組んでいきたい。



農作業中の熱中症を 予防しましょう!!

農業者の
みなさまへ

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です!!

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業

こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給

単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う

熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用

◎「News Letter」は、原則奇数月に発行しています。

編集：中国四国農政局 徳島県拠点

〒770-0943 徳島県徳島市中昭和町2丁目32番地

TEL (088)622-6133(内線405) <農政局HP> <https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>